



篠五だより

令和7年
2月28日発行
江戸川区立
篠崎第五小学校
No. 11

学校ホームページ



感謝と信頼で繋ぐ

校長 山田 勇一郎

いよいよ3月、令和6年度の締めくくりの時期になりました。今の学年で身に付けるべき力をしっかり付けて、よりよい形で令和7年度に繋げていきたいと思えます。

今、篠五小では、始業前や授業中に時折、音楽室や体育館から校歌を奏でる音が聞こえてきます。5年生が、篠五小伝統の鼓笛を6年生から引き継ぐための練習が大詰めを迎え、熱が入ってきているところです。

3月は、様々なバトンの引継ぎが行われる月です。学校全体の役割でいえば、6年生が5年生に、5年生は4年生に……2年生は1年生に、バトンを渡す月でもあります。特に、6年生はこれまで篠五小のリーダーとしての役割をしっかりと果たしてきてくれました。このバトンは重かったかもしれませんが、走り続けるのがつらいと感じたことがあったかもしれませんが、しかし、このバトンを持って最後までしっかりと走り切ることで、思いやりや優しさ、自信と責任感、中学校進学への意欲等が育っていきます。

そして間もなく、このバトンを5年生が引き継ぎます。初めのうちは、6年生のようにかっこよく速くは走れないかもしれませんが、それでも、バトンをしっかりと持って、次に繋ぐために心を一つにして頑張ってくれることを心から期待しています。

篠五小では、このようにして49年間バトンを繋いできました。そして4月から節目の50年目を迎えます。バトンを渡してくれた6年生や卒業生にあこがれ、一歩でも近づこうと努力し、そのバトンを丁寧に次に渡す。そうやって篠五の伝統が築かれてきました。これまで篠五のバトンを繋いでくれた6年生が、地域にはたくさん住んでいらっしゃいます。もちろん、本校の保護者の皆様の中にもいらっしゃいます。

ところで、リレーのバトンパスを成功させるために大切なことは何でしょうか。私は「感謝と信頼」の気持ちであると思えます。次走者は前走者が懸命な走りバトンで繋いでくれたことに心から感謝して、大事に受け取って走り続けること。そして、前走者は次走者の走りに信頼の思いを込めてバトン渡した後、ひたすら応援し続けること。この感謝と信頼でバトンを繋ぐことが心をもより強く繋ぐことになるのだと思えます。この春、それぞれの学年でそれぞれのバトンパスが行われます。バトンを渡す、渡される子供たちに感謝と信頼の気持ち、そして、バトンには、走ってきた人の努力と願いが込められているということを感じてほしいと思えます。

24日の卒業式、篠五小の49回目のバトンパスが見事に成功することを心から願っています。